

# 事業所保存・閲覧用

(実績報告時の添付書類などには、この表紙ではなく、当機関にご返送いただく  
正本〔評価者の個人名が記載されているもの〕の表紙をコピーしてご使用ください)

## 平成26年度 東京都福祉サービス第三者評価

2015年3月17日

社会福祉法人バオバブ保育の会 御中  
喜多見バオバブ保育園

〒 160-0023  
所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1  
評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構  
認証評価機関番号 機構 03 - 081  
電話番号 03-6279-0331  
代表者氏名 清水 康之

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H1302026	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	④	H0404082	<input type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑤	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑥	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	喜多見バオバブ保育園			
事業所連絡先	〒	157-0067		
	所在地	東京都世田谷区喜多見1-4-7		
	TEL	03-3749-1818		
事業所代表者氏名	遠山 由紀子			
契約日	2014 年 9 月 1 日			
利用者調査票配布日(実施日)	2014 年 10 月 27 日			
利用者調査結果報告日	2014 年 12 月 25 日			
自己評価の調査票配布日	2014 年 9 月 16 日			
自己評価結果報告日	2014 年 12 月 25 日			
訪問調査日	2015 年 1 月 7 日			
評価合議日	2015 年 1 月 7 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査では開始時に調査の趣旨や第三者評価制度の概略を記した依頼状、園内掲示用のポスターなどで理解促進を図り、開始後には回収率向上のため提出御礼と未提出者への呼びかけをかねたチラシを全対象者に配付した。また開始時の説明で評価項目への理解が深まるよう配慮したり、各標準項目の振り返りを的確に行うための独自資料を提供するなど、事業所が自己評価を行うにあたっての疑問や不安を軽減できるようにしている。			

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 保育園は、子どもたちの日々の生活の場であり、保育者はその日々が健康で楽しく充実したものになるようおとなとしての役割を果たさなければならない。</p> <p>2) 保育園は、また、このことを基盤にしながら、子どもたちが日々の生活を通して育っていく場である。どんな人として育っていくことを願うのか、を深く考え、職員で共有して保育にあたりたい。</p> <p>3) 保育の大きな目標を、次のように定める。 子どもたちが、 ・自分を大切に思える人 ・柔らかに開かれた心もち、様々な人と共に生きていける人 に育っていくことを願い、保護者と共に子育てをすすめる。</p> <p>4) 保育園は保護者との協同の場である。保護者もその人なりの価値観をもって生きている人であり、目標や課題を共有することは並大抵ではないかも知れないが、保育を通して地道に努力を続けたい。</p> <p>5) 子どもたちのいのち（生命、人権）が守られ、健康に育つよう、安全で快適な環境と暮らしを作っていく。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>保育に対しては、自らの感性を大切にしながらも広い視野を持ち、前向きに考えていけるひと。また、違う考えや意見に対して、しっかりと受けとめながら自分の意見を持ち、話し合っていく姿勢をもっているひと。周りの人に対して（保護者、同僚、近隣住民、子どもたち…）、柔らかに開かれた心をもって接することを心がけるひと。つまり、保育者は、周りの全ての人との協力のもと、子どもの生命、成長に対して一定の責任をあずかる立場にあるのだ、ということを引き受ける覚悟がほしい。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>・保育という営みは、必ずしも勤務時間で区切られた範囲で完結するものではない、絶えず自らの保育を振り返り新たな発見を実践に繋げる姿勢を持ち続けて欲しい。一緒に仕事をする仲間と楽しみながら保育の話ができるような関係を日頃から築いていくという自覚を持って欲しい。</p>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯69(在籍児童数77)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ郵送または郵送と事業所内での回収との併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数

69

共通評価項目による調査対象者数

69

共通評価項目による調査の有効回答者数

40

利用者総数に対する回答者割合(%)

58.0

## 利用者調査全体のコメント

総合的な園に対する満足度は「大変満足」67.5%・「満足」30.0%の計97.5%と高い値を得ており、設問別でも「食事」「戸外活動」「急な残業等への配慮」「子どもの気持ちの尊重」など全16問中12問で80～90%台の高い支持を得ている。自由意見では「園外での自然との関わりや自由な発想で活動することを大切に、古きよきものはそのままに、新しいものも取り入れようとする姿勢が素晴らしく、一人ひとりの個性や子どもらしさを大切にしてくれるので子どもたちが皆のびのびと過ごしている」「子どもときちんと対等に向き合って個々の要求やペースに合わせ、遊びも自然や季節に合わせて行われ、職員やスタッフがアットホームで接しやすい」「机や椅子、本棚など園内のすべての家具も含め、安全面など子ども達に一番いいように配慮され、給食やおやつも食材が吟味された手作りである点もよい」「園児一人ひとりを注意深く見てくれ、園全体に優しく温かい雰囲気がある」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては行事の充実や保護者への情報発信、保護者の負担や就労等への配慮に関することなどが見られた。

## 利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	39	1	0	0
<p>実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が97.5%、「どちらともいえない」が2.5%となっている。自由意見は5件で、「発達に応じて毎日細かく食べ方や食べられたものを丁寧に伝えてくれ、助かった」「嫌われがちな野菜などの食材は細かく切ったりスープにしたりとよく工夫され、固いクッキーなどで噛む力がつくようなものも出してくれる」「体調などに応じて献立や食材を配慮してくれ、基本的にすべて手作りである点も安心できる」などの声が寄せられている。</p>				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	38	2	0	0
<p>「はい」が95.0%、「どちらともいえない」が5.0%となっている。自由意見は「遊びに行く公園の種類も増え、子どもが行きたいところを話し合っていて決めてくれるように、帰宅しても楽しそうに話してくれる」「園庭や近所の公園などに行き、泥だらけになったり絵の具や色水を使ってダイナミックに遊ぶなど、自由な発想で子どもらしく遊ばせてくれる」「年齢に応じたことをしてくれている」と、全3件はいずれも肯定的な内容である。</p>				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	35	1	0	4
<p>「はい」が97.2%、「どちらともいえない」が2.8%となっている。自由意見は4件で、「当日でも電話をすれば対応してくれ、急な時も安心できる」「定刻を過ぎても当日の電話で対応してくれる」のほか、職員間の連携にさらなる配慮を望む声も見られたが、実数値では保護者からの高い支持が示されている。</p>				

4. 安全対策が十分取られていると思うか	26	14	0	0
「はい」が65.0%、「どちらともいえない」が35.0%となっている。 自由意見は6件で、「以前は門が開けっ放しの時があり少し気になったが、改善されている」のほか、外部侵入対策や保育中の安全管理、設備面について、気になる点や要望が寄せられている。				
5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	31	8	1	0
「はい」が77.5%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が2.5%となっている。 自由意見は8件で、「親が参加するプレイデーは、休日の半日なので都合をつけやすい」などのほか、行事の日程の設定や保護者への通知において、各家庭の負担や就労等の事情に対するさらなる配慮を望む声が寄せられている。				
6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	35	4	1	0
「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が2.5%となっている。 自由意見は5件で、「いろいろ相談に乗ってもらえる」「少し気になったことがあればいつでも気軽に聞くことができ、幼児も連絡帳がない分、壁新聞や直接今日のできごとを伝えてくれるので様子がわかってありがたい」のほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告や職員の対応について、さらなる配慮を望む声も見られるが、実数値からは概ね信頼を得ているものと考えられる。				
7. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	35	4	1	0
「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が2.5%となっている。 自由意見は4件で、「皆さんとても優しく親切である」「年度初めのアンケートや面談の時に相談したことや伝えたことは、普段から気をつけて見ていてくれると感じる」のほか、職員の傾聴姿勢や日常のコミュニケーション機会の設定について、さらなる配慮を望む声も寄せられているが、実数値からは概ね信頼を得ていることがうかがえる。				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	37	3	0	0
「はい」が92.5%、「どちらともいえない」が7.5%となっている。 自由意見は3件で、「毎日掃除機をきちんとかけている様子を見かけ、水周りやトイレもきれいに保たれている」のほか、各室内の清掃や衛生管理などについて、さらなる向上を望む声が見られるが、実数値からは保護者の高い支持がうかがわれる。				
9. 職員の接遇・態度は適切か	34	5	1	0
「はい」が85.0%、「どちらともいえない」が12.5%、「いいえ」が2.5%となっている。 自由意見は6件で、「一度も不適切だと感じたことがなく、素晴らしい」「皆さんフレンドリーで話しかけやすく、服装も動きやすそうで、ナチュラルでよいと思う」のほか、職員の日頃の接遇マナーや服装・身だしなみ等について、さらなる配慮を望む声も見られるが、実数値からは概ね支持を得ているものと考えられる。				
10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	37	3	0	0
「はい」が92.5%、「どちらともいえない」が7.5%となっている。 自由意見は8件で、「迅速に対応、連絡してくれる」「小さな傷や変化も気が付いて知らせてくれる」「体調に変化が見られた時、必要に応じてカメラで撮って報告してくれることもある」などのほか、ケガや体調急変時の対応、保護者への報告などについて、さらなる向上を望む声もあるが、実数値では保護者の高い信頼が示されている。				

11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	27	7	2	4
<p>「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が19.4%、「いいえ」が5.6%となっている。  自由意見は9件で、「自分の子どものことではないが、ケンカをしている二人の話をきちんと聞き、どうするかも子ども達と話して納得するまで時間をかけてあげていた」「お互いの子どもの気持ちを理解し、それを子ども達に伝えている」「説明を細かくしてくれる」のほか、子ども間のいさかいや子ども一人ひとりへの配慮や目配りなどについて、さらなる向上を望む声も寄せられている。</p>				
12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	38	2	0	0
<p>「はい」が95.0%、「どちらともいえない」が5.0%となっている。  自由意見は2件で、「大人が側で見ていて判断するのではなく、積極的に子どもの気持ちを聞き出している様子をよく見かけ、家でも自分の気持ちを伝えようとする姿が見られる」のほか、子どもへの職員の対応について、さらなる向上を望む声も見られるが、実数値からは高い信頼を得ているものと考えられる。</p>				
13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	33	4	0	3
<p>「はい」が89.2%、「どちらともいえない」が10.8%となっている。  自由意見はプライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声が3件寄せられているが、実数値からは概ね信頼を得ているものと考えられる。</p>				
14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	32	6	2	0
<p>「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が15.0%、「いいえ」が5.0%となっている。  自由意見は6件で、「園便りで保育内容に関することをわかりやすく載せてもらっているのはとてもありがたい」「懇談会で毎回説明を受けている」のほか、毎日の子どもの様子や保育内容等に関する報告・伝達や保育の目標・目的の周知などについて、さらなる向上を望む声も見られるが、実数値からは概ね信頼を得ているものと考えられる。</p>				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	26	5	1	8
<p>「はい」が81.3%、「どちらともいえない」が15.6%、「いいえ」が3.1%となっている。  自由意見は5件で、「あまり不満はないが、お願いしたことにはきちんと対応してくれている」「まず不満と思ったことがない」のほか、不満・要望等への対応や意向の伝達機会の確保について、さらなる検討を望む声も見られるが、実数値からは概ね支持を得ていることがうかがわれる。</p>				
16. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	23	5	2	10
<p>「はい」が76.7%、「どちらともいえない」が16.7%、「いいえ」が6.7%となっている。  自由意見は3件で、「入園時に説明があった」「言われた気がするが、利用しようと思わなかったので覚えていない」のほか、「このアンケートで知った」との意見もあった。</p>				

**I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7、8)**

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>9/9</b>
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <span style="float: right;"><b>評点(〇〇〇〇)</b></span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <span style="float: right;">○非該当</span>
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;"><b>評点(〇〇)</b></span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <span style="float: right;">○非該当</span>
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;"><b>評点(〇〇〇)</b></span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <span style="float: right;">○非該当</span>
	<b>カテゴリー1の講評</b>	
	法人の理念・目標を全職員に適宜周知し、保護者にも思いとともに伝えている 法人共通の保育理念を「子どもたちが、自分をたいせつに思える人・柔らかに開かれた心もち、様々な人と共に生きていける人に育っていくことを願い、保護者とともに子育てをすすめる」として掲げ、「入園のしおり」や法人のホームページ(以下『HP』)に掲載している。常勤者には理念・目標とともに使命と責任を記載した「BBハンドブック」を配付のうえ採用時に説明を行い、非常勤者には同ハンドブックを貸し出している。保護者には見学の際や入園説明会において説明を行うほか、園便りや懇談会でもその思いを伝えている。	
	経営層が保護者や職員に日常的に姿勢を示し、率先して園運営を行っている 「BBハンドブック」に法人共通の園長・副園長の仕事を記載し、別途園独自に「事務室の仕事」として経営層の業務内容を一覧化している。園長・副園長は押しつけの保育ではなく、保護者と気持ちを通わせ、同じ認識を持ちながら日々の保育にあたることを各職員に求め、また園便り「木もれび」では年度ごとにテーマを定め、保育活動の様子や取組などを園長が自身の所感も交えてつづることで、保護者にメッセージを発信している。開園3年目でもあり、今後さらに職員間の保育観・仕事観の共有と底上げに努め、組織力の発揮につなげたいと考えている。	
	法人・園として重要案件の検討手順を定め、決定内容等を職員・保護者に伝えている 法人運営に関する重要事項の決定は各園の園長による企画調整会議で検討し、理事会が決定機関となっている。決定した案件は企画調整会議で各園の園長に報告され、常勤職員や案件に関係する非常勤職員に文書を配付し、伝えることになっている。園内の運営に関する案件は園長・副園長・ブロックリーダーで構成される運営委員会で検討・決定し、職員会議や書面の配付によって各職員に伝えられる。保護者には園便りや園内の掲示のほか、案件により別途書面を配付したり、懇談会で伝えるなどしている。	

カテゴリ-2		
2	経営における社会的責任	
サブカテゴリ-1(2-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
<b>評価項目1</b> 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある		<b>評点(〇〇)</b>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当
<b>評価項目2</b> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		<b>評点(〇〇〇)</b>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当
<b>評価項目3</b> 地域の関係機関との連携を図っている		<b>評点(〇〇)</b>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当
<b>カテゴリー2の講評</b>		
<b>福祉従事者としての基本行動・規範・倫理を示し、学びの機会を設定している</b> 「バオバブ保育園職員綱領」に子どもの尊厳・存在の尊重をはじめとする10か条が定められ、「BBハンドブック」中の「職員としての心がけたいこと」にはこれに加え「社会人、職業人としての自覚と責任を持つ」として、就業規則の抜粋や個人情報を含む守秘義務、子どもへの接し方や服装・身だしなみなど職員としての規範を記載している。職員はこれらを入職時に学ぶとともに、職員会議や職員懇談会において園長が子どもや保護者との関わり方、保育者としての心構えなどを話すなど、研鑽が図られている。		
<b>地域の子育て家庭をさまざまな形で支援し、専門性の還元を積極的に行っている</b> 隣接する区の「やま公園」で運動遊びを後押しする「出前ひろば」、保育士や栄養士・看護師によるミニ講座や室内でゆったり過ごす時間を提供する「あかちゃんの会」、1歳半を過ぎた子どもの世帯向けの保育所体験「とことこクラブ」を実施し、地域の子育て家庭が参加し、交流できる機会をつくっている。また保健・食事や子どもの発達などの情報を提供する情報紙「やま公園だより」も園内外で配布している。世田谷区の各種媒体での情報発信や今年度の第三者評価受審など、透明性の確保にも取り組んでいる。		
<b>地域ネットワークへの参画やボランティア等の受け入れ態勢の整備を行っている</b> 園長が区の園長会の役職に就き、会の運営に携わっており、各園の情報を含め、保育ニーズや利用者の要望などの共有や情報交換を行っている。また砧地区の保育ネットワークにも参画し、不審者対応や表現活動などの研修会の開催をはじめ、地域の課題に協働して取り組んでいる。今年度は園見学や観劇への招待など近隣の他園との交流も持たれている。ボランティア等には受け入れの意義・手順・流れなどを示した「保育体験・ボランティアの方へ」を配付し、個人情報保護などの注意事項を説明のうえ誓約書の提出を求めている。		



カテゴリ-3		
3	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ-1(3-1)		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>8/8</b>
<b>評価項目1</b> 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)		<b>評点(〇〇)</b>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		<b>評点(〇〇〇)</b>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目3</b> 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		<b>評点(〇〇〇)</b>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
<b>カテゴリ-3の講評</b>		
苦情解決制度をはじめとした保護者個別の意見等の把握機会を整備している 苦情解決制度を整備し、制度の概要・責任者・第三者委員などを「入園のしおり」や園便りに掲載し、玄関にも掲示して周知と利用促進を図っている。玄関には「何でも御意見箱」も設置し、日常の送迎時の会話や連絡帳などを通じた意向伝達とともに、直接・間接を問わず、保護者の個別の意見・要望に積極的に耳を傾ける姿勢を示している。寄せられた意見に対しては園長が面談を行ったり、書面化して職員に配付し、会議で説明のうえ検討がなされるなど、組織全体で意向を受けとめ、対応・解決にあたっている。		
行事開催後のアンケート実施によって感想や要望を把握し、次年度に活かしている 毎年度当初に保護者から各家庭の育児方針などを書面で把握し、それぞれの子どもへの支援に活かしているほか、「プレイデー(運動会)」や親子観劇、「ワークショップ」など保護者参加の各行事でも開催後にアンケートを取り、感想や要望把握を行っている。回収後には取りまとめのうえ職員間での回覧等によって共有を図るほか、各行事の担当を中心に改善方法を検討し、寄せられた意見の抜粋を園便りに掲載して保護者にも伝えている。今後はより効果的に要望等を把握するためのアンケート帳票の工夫も検討されたい。		
地域の状況・ニーズや保育の制度・政策の動向や展望の把握に努めている 地域の保育ネットワーク内の研修や園の子育てひろば事業の参加者に対するアンケートから、地域内の子育て世帯のニーズの把握に努めており、定期的な離乳食講座・玩具作り、病院の紹介など、要望への対応にも努めている。また区の園長会で講師を招き、区のビジョンや新制度についての学習会や情報交換が行われているほか、業界誌の定期購読、法人内での合同研修会などを通じ、保育の制度・政策の動向や展望の把握に取り組んでる。今後は地域行事への参加など、より地域との関係を深め、ニーズ収集にもつなげたいと考えている。		

カテゴリー4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリー1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>11/11</b>
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>法人の長期計画のもとで園の年度事業計画を策定し、実行に取り組んでいる</p> <p>法人として24年度から38年度までの15年計画を策定し、「組織運営」「法人」「施設整備」「財政」「保育」「共有」「地域福祉」「研修」の各テーマについて状況と課題・目標を明示している。これを踏まえ、園で単年度の事業計画を策定し、今年度は児童票の書式の見直しと保護者との共有、異年齢保育の実施などに重点をおいた取組を行っており、運営委員会内で課題の検討を図りながら、成果にもつなげている。法人の長期計画との関係、年度計画の取組・成果の質をより高めるための目標や進捗などの指標の明示などが今後の課題と思われる。</p> <p>各行事では担当者が中心となって計画から反省までを行い、成功に導いている</p> <p>短期の諸活動のうち、行事に関しては3月に各行事の係分担を決定し、それぞれの担当が企画書を起草し、経営層と相談のうえで計画を立案している。各行事も担当者には前年度の担当を配置し、前年度の反省やアンケート結果をより効果的に継承できるよう配慮している。各行事計画にはスケジュールや目標を定めるとともに、それぞれに委員会を設けて職員間で随時検討し、これをもとに職員会議でも資料を配付して全体の検討・確認を行う仕組みとして、決定事項は赤字で強調するなど、確実な実行と成果獲得に向けた工夫をしている。</p> <p>安全衛生委員会を中心に、安全点検や各種訓練とその反省などを行っている</p> <p>安全衛生委員会の取組として、各クラスと調理室が36項目の「事故防止チェックリスト」による自己点検や毎月の避難訓練の反省を行い、課題の抽出と改善検討に取り組んでいる。毎月の防火・防災訓練のほか、別に消防署の協力による非常通報訓練と不審者侵入対策訓練を隔年で実施している。利用者調査で見られた外部侵入への懸念についても課題と受けとめ、朝の環境整備の職員の配置など、対策にも乗り出している。保育中のケガ等は所定の様式への記録のほか日々のミーティングや月末の職員会議での報告によって共有と再発防止を図っている。</p>		

カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>8/8</b>
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
<b>評価項目1</b> 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		<b>評点(〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 職員のやる気向上に取り組んでいる		<b>評点(〇〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
<b>カテゴリー5の講評</b>		
職員育成の基本姿勢を示し、必要な人材の採用や適材適所の職員配置に取り組んでいる 人材育成や自己研鑽の基本指針は『職員としての育ち合い』ファシリテーションプログラム』に明示し、「BBハンドブック」に綴っており、全職員による自己評価と園長との面談を通じた緩やかな目標管理などを行っている。人材募集の際の選考は採用試験・アンケート及び法人内の複数の園長・副園長による面談によって行い、法人の理念に共感できる人材を採用している。職員配置についてはアンケート・園長面談で職員の意向を把握したうえで、園長・副園長が協議して素案を上げ、職員会議において組織内の了承を得て決定する流れとしている。 内外の研鑽機会の活用による各職員の資質向上や研修成果の共有が図られている 法人内の年間の研修プログラムを系列園の代表者が検討を行い、計画を策定して全園合同の研鑽機会を設定するほか、各園のニーズに即した園内研修や地域内の複数園での合同研修が行われている。また職員は研修計画に個人の目標設定をし、これらの法人内研修や自治体・関係団体等の研修に参加している。外部研修への参加については会議室に研修案内を設置、勤務調整により希望を募っている。研修参加後には報告書の提出を課しており、職員会議での報告を兼ねた研修会や報告書の配付で成果の共有を図っている。 各職員が働きやすく、かつ主体的に保育や運営に関われる風土づくりに努めている 「BBハンドブック」中の「安全確保と事故発生時の対応についての指針」など各対応マニュアルに職員の判断基準を示している。また職員の気づきや工夫を毎月の「エピソード会議」をはじめとした会議・ミーティング等で共有し、保育活動等に採り入れることで、民主的な運営のもとでの職員の主体的な行動・判断や組織的な知見の集約を図っている。各職員の意向等は経営層や看護師による適宜の声かけや面談によって把握し、心身の健康の維持向上につなげるほか、勤務シフト等はブロックリーダーや副園長が調整にあたり、柔軟な対応をしている。		

7 カテゴリー7		
サブカテゴリー1(7-1)		
情報の保護・共有に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>7/7</b>
<b>評価項目1</b> 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		<b>評点(〇〇〇)</b>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○非該当
<b>評価項目2</b> 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		<b>評点(〇〇〇〇)</b>
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○非該当
カテゴリー7の講評		
PC及び園内ネットワークのアクセス制限など、情報の管理・保護に取り組んでいる 園内にあるPCのアクセス管理は各PC及びLAN接続時のパスワードにより行い、権限に応じたアクセス制限を設けている。また機密情報の記録媒体は原則持ち出し禁止とし、情報の漏洩防止に努めている。機密性の高い文書情報については情報ごとにファイルで分別し、事務室の書庫で保管している。訪問調査時点では施錠管理が行われておらず、園としても課題と認識し施錠可能な書庫への移行を予定している。各書類は保管・廃棄の年限が定められており、園長・事務により年度ごとに更新・削除を行っている。		
個人情報保護の基本方針や子どもの肖像の取り扱い等について保護者に説明している 個人情報保護に対する基本的な方針は「入園のしおり」や法人のHPに掲載し、入園時に保護者への説明を行っている。また個人情報のうち、HP・ブログ及び園便りへの掲載と取材対応における子どもの肖像の取り扱いについては書面で保護者の同意を得るほか、年度末に配付するCD所収の写真の外部漏洩禁止についても別途誓約書様式を策定している。開示請求について関係規程に示され、請求や決定通知の様式も整備されているが、保護者への明示に関してはさらなる検討の余地も見られる。		
職員・関係者の個人情報保護の徹底に向けた啓発の機会が設けられている 全職員が所持している「BBハンドブック」に「個人情報の取り扱い、電子情報の取り扱いについて注意してほしいこと」を記載し、入職時には説明を行い、誓約書の提出を受けている。また年度当初の職員会議においても個人情報保護の説明を行い、意識の継続を図っている。園ではさらに関係研修への参加及び参加職員による園内研修を予定している。ボランティア・実習生に対しては書面とオリエンテーションによって個人情報保護の徹底を促し、誓約書の提出を求めている。		

カテゴリー8	
8 カテゴリー1～7に関する活動成果	
サブカテゴリー1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
<p><b>評価項目1</b></p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」</li> <li>・カテゴリー2:「経営における社会的責任」</li> <li>・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている</li> <li><input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない</li> <li><input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない</li> </ul>
<p><b>改善の成果</b></p> <p>組織体制や地域子育て事業の充実・発展、安全や発達記録の向上に取り組んでいる</p> <p>今年度は運営委員会のメンバーに幼児・乳児・調理リーダーを加え、現場の声を園運営により反映できるような体制としている。また各クラスリーダーの配置など、組織としての職務分担を明確にしている。これらにより、連絡事項の周知徹底が図られ、園運営の円滑化につながられている。子育て家庭への地域支援事業では、担当職員によるニーズの把握や企画・計画面で充実が図られており、定期的な支援事業の開催がなされている。</p> <p>また安全面において、園庭の安全と片付けについて各チェックリストを整備し、毎日朝夕に点検する取組を開始したほか、外部の専門家による園内の視察を受け、誤飲の危険のある小さな備品を撤去するなどの措置を行っている。さらに常勤職員が救命救急講習を受講し、AEDについても対応を学ぶなどの研鑽も図られている。</p> <p>さらに年度事業計画で重点課題とした児童票「あしあと～育ちの記録」の改訂にも取り組み、25年度の「エピソード会議」での継続的な検討を踏まえ、記入のあり方や視点の持ち方について組織内の認識共有を図ったうえで、今年度から保護者への定期的な開示も開始している。</p>	
サブカテゴリー2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
<p><b>評価項目1</b></p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている</li> <li><input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない</li> <li><input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない</li> </ul>
<p><b>改善の成果</b></p> <p>法人内研修・園内研修を保育活動や行事に活かし、保護者との共通理解にもつなげている</p> <p>職員の勤務体系・処遇において、「特殊業務手当(常勤職員)」「早朝夕方手当(非常勤職員)」の増額をして、職員の働きがいややる気の向上に向けた配慮の一環としている。また外部研修への積極的な参加を促し、成果として派遣人数が増加している。また法人内の合同研修で取り組んだ表現活動に関する学びを活かし、参加職員による園内研修を行うとともに、それらの成果を保育活動に採り入れている。さらに保護者参加型の作品展「アートフェスタ」の開催にも結びつけ、保護者が各クラスで日頃子どもたちが親しんでいる活動の一端に触れ、制作を楽しむ機会を設けて作品展の展示を行うとともに、子どもが生活の中で感じる興味や表現につながる気持ちの動きを、保護者にも実感をもって知ってもらう機会としても位置づけている。</p>	
サブカテゴリー3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
<p><b>評価項目1</b></p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」</li> <li>・カテゴリー7:「情報の保護・共有」</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている</li> <li><input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない</li> <li><input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない</li> </ul>
<p><b>改善の成果</b></p> <p>保護者との相互理解や幼児の保育のさらなる充実を企図した充実・改善に取り組んでいる</p> <p>前掲の「あしあと」の改訂と保護者との共有では、個々の発達や興味関心をさまざまな視点でとらえた内容を記録し、写真も活用して子どもの育ちについて認識を共有することで、子どもの育ちの見守りにおける保護者との協力・共感をより深めるとともに、保育者の資質向上にもつなげている。また継続的な課題であった3歳以上児の指導計画作成において、今年度は保育内容に応じて様式の変更を行っており、今後さらに検討し、次年度の確立を目指している。</p> <p>保護者への情報発信としてブログも開始しており、パスワードログインによる保護者限定の閲覧として、写真を交え、週1回程度の更新サイクルで子どもたちの生活や園の保育内容を発信している。</p> <p>情報保護の面では、所定の保存・廃棄年限に基づいて重要書類の移動・廃棄を行い、管理状況を更新するほか、法人の合同研修会や行政の外部研修を通じ、個人情報保護に関する研鑽が図られている。園内では報告会を兼ねた園内研修によってその成果の共有を図ることとなっている。</p>	

サブカテゴリー4(8-4)	
事業所の財政等において向上している	
評価項目1	
財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<p>月次の収支分析確認など、計画的な財務管理のもとでの運営がなされている</p> <p>顧問業者が作成している毎月の資金収支分析表を園長がチェックしており、現時点では収入の安定が図られ、財務バランス上も特段の問題は生じていないものと考えられる。園としては昨今の保育士不足の懸念を踏まえ、今後の常勤・非常勤の各職員の確保における人的・財政的両面のリスクを重視しており、さらに計画的な設備整備資金の積立の確保をしつつ、人件費の長期的な推移表の作成などにより、より計画的に園運営を行う意向である。</p>	
サブカテゴリー5(8-5)	
前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<p>アンケートや日常の交流を保護者の意向の把握の機会とし、改善の参考としている</p> <p>行事開催後のアンケート結果を真摯に受けとめ、集計のうえ、保護者に対して園としての考え方や改善に向けた方針などのコメントを掲載した書面での報告を行っている。保護者同士の親睦機会を増やしてほしいとの声を受け、今年度の「ワークショップ」では終了後に懇親会を催したり、「プレイデー」の感想を受けて会場のレイアウトを見直し、観覧の利便を向上させるほか、プログラムの編成・進行を見直すなどの改善を行っている。</p> <p>また毎年の都の利用者調査も運営の参考とするほか、日常的にも保護者の要望・意向の把握に取り組み、寄せられた要望から今年度は保護者が事務室に入りやすい雰囲気づくりに取り組み、事務室内のデスクの配置転換を行うなどしている。</p>	



## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>パンフレットなど複数の資料やホームページを通じて、園の特色や思いを伝えている</p> <p>パンフレット「入園のしおり」には法人各園のシンボルツリーであるバオバブの紹介、デイリープログラムや年間行事のほか、保育目標(「私たちの願い」)や心がけている保育の方針、保健や食事で大切にしていることなど、園として保護者に伝えたいことを詳細に記載している。併せて園の子育てひろば事業のパンフレットと地域向け広報紙「やま公園だより」も手渡している。法人運営5園合同で開設しているホームページ(以下『HP』)でも法人共通の保育や食事・保健の特色のほか、登園を含む各園の保育内容や地域支援事業を伝えている。</p> <p>地域の社会資源や行政の各種媒体を通じた利用希望者への情報発信を行っている</p> <p>上記の子育てひろばの案内紙が砧地区の区総合支所に常置され、「砧地域子育て支援ネットワーク」の子育て支援案内にも連絡先・所在地と園の地域子育て支援のメニューが掲載されている。また区の保育所案内冊子及びHPでも保育所利用希望者向けの基本情報が掲載されている。地域向けの掲示板を沿道に設置しており、子育てひろば事業など地域向けの園の取組を主に広報するほか、園の外周柵にも毎月の地域子育て支援イベントの掲示を行っている。</p> <p>見学者には園の保育や室内環境、子どもの育ちにおいて重視することなどを伝えている</p> <p>見学は希望者の意向に沿って曜日や時間帯を設定し、子どもの活動や食事の様子を見やすい平日の10時頃や午睡後の16時頃を主に勧めるほか、夕方や土曜の希望にも可能な限り対応している。当日は事務室内の相談室で概要を説明したのち、園内を案内して環境の特色や保育の特色を説明し、相談室に戻って質疑応答を行う。保育目標や戸外活動・食事、実体験を大切にする日頃の保育活動や、行事においても日常生活の延長線として行っていることなど、特に相互理解が必要な内容も丁寧に伝えている。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園時には資料などをもとに通園開始に必要な情報を説明し、共通理解を図っている</p> <p>入園決定者への説明会では、「入園のしおり」に沿って各年齢の発達の特徴や保育の概要、保健・安全や食事、利用における依頼事項や日用品など、利用開始に必要な情報全般を伝え、日用品の現物を示したり、同伴の子どもを保育するなど、保護者がより説明を理解しやすいよう配慮している。説明会後の担任予定者との面談でも準備物や通園に関するアドバイスなどを伝え、年度初日の「入園を祝う会」でも毎日の登降園の流れや持ち物等を各クラスで説明している。説明への同意は質疑応答と個人情報利用などに関する承諾書面によって確認している。</p> <p>保護者との個別の面談と各様式によって、子どもや家庭の状況を把握している</p> <p>入園予定の子ども一人ひとりについて、保護者が記入する「保育予備調査票」「生活状況調査票」「保健調査票」から家庭状況や食事・排せつ・睡眠その他生活面、保健関連の成育歴・発達状況を把握したうえで、面談で詳細を確認している。これらの情報をもとに各園児の児童票を作成し、個々の情報を管理するほか、アレルギーなど全体の共有情報を一覧化したり、打ち合わせ・会議の際に関係職員間で申し送るなどして保育開始に備えている。また任意のアンケートも行い、各家庭の育児方針などを把握してその後の交流や個人面談等に活かしている。</p> <p>入園直後の子ども・保護者への配慮や利用終了後の関係継続に努めている</p> <p>入園直後には環境変化による子どものストレスを和らげるため、保育時間を調整して徐々に長時間の園での生活に慣れられるようにしている。各園児の保育時間や配慮事項は個別に計画に記し、0歳児を担当制、1歳児も緩やかな担当制として愛着関係確立につなげたり、希望する保護者には園の保育や食事を体験してもらうことも可能とするなど、子どもも保護者も不安なく通えるようにしている。利用終了後には行事の案内を行うほか、途中退園者には作品や写真を郵送するなどして関係の継続を図り、今後は同窓会的な行事も企画したいと考えている。</p>			

サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
●あり ○なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当

<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
<b>サブカテゴリ3の講評</b>		
<p><b>子どもの状況を把握して職員間で共有をする仕組みが整えられている</b></p> <p>入園時に個別の面談を行い、成育歴や園への要望、子育ての方針等を聴き取り、アレルギーの可能性のある子どもは栄養士も面談に加わり、状態を詳しく把握して、園での対応の仕組みを説明している。確認した情報は会議時において職員に伝達を行い、一人ひとりの子どもを把握することで、子どもが無理なく園での生活に移行できるような仕組みを整えている。年度当初の懇談会では年間のクラステーマや年間を通しての発達の目安や取り組み方などを伝え、懇談会での様子や保護者からの要望は会議やミーティングで共有をしている。</p> <p><b>計画を職員間で共有して個々の育ちを全職員で把握し、保育提供に活かしている</b></p> <p>法人の保育のベースとなる「BBハンドブック」、保育課程、「育ちの目安」をもとに、年・月・週の計画が策定されている。年間指導計画は各クラスで作成後、全クラスに配付をしてテーマや内容について共有されている。個々のエピソードなどを補足して一人ひとりの様子を伝達し、子どもの多面的な姿から保育内容を検討し合い、さまざまな意見をもとに職員間の情報共有の場として次の計画に活かされている。3歳以上児は異年齢保育を行っており、活動内容に応じて計画策定を分け、実態に即した内容・配慮となるような工夫がなされている。</p> <p><b>個々の子どもの育ちを職員で丁寧に共有し、一人ひとりに即した保育実践を図っている</b></p> <p>児童票(「あしあと～育ちの記録」)には個別の成長記録として毎月のテーマが策定され、エピソードとともにテーマに対する子どもの姿や振り返りなどを記録している。定期的に保護者にも開示し、保護者コメント欄を設けるなどして共有を図り、子どもの成長を見守ってゆく仕組みとしている。各計画や日々の日誌には子どものエピソードが記録され、これも踏まえて「エピソード会議」を定期的に行い、子どもの姿から感じることを職員が自由に話し合い、日々の一人ひとりへの関わり方につなげるなど、個々の子どもの成長を大切にされた保育実践を行っている。</p>		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>情報の取り扱いや保育の環境・援助においてプライバシー等への配慮に努めている</p> <p>子どもの情報を本来の用途以外で利用する際には保護者の同意を得ることを定め、入園時に保護者にも説明している。また「全職員の共通マニュアル」を整備し、羞恥心への配慮等について共通の関わりに努めている。着替えやおむつ交換の場所は棚や仕切りなどを活用して周辺からの視線への配慮を行うとともに、幼児トイレには扉を設置するなど、子どものプライバシーや羞恥心に配慮している。夏季のプール遊びも外部の視線を考慮して垣根にシートを張って行っているが、シャワー時の着替えについてもさらなる配慮の検討が期待される。</p> <p>子ども一人ひとりの尊厳や人格を認め、尊重した支援の徹底に取り組んでいる</p> <p>系列各園共通の職員の規範である「BBハンドブック」や保育課程「パオバブ保育園職員綱領」の中で、子ども一人ひとりの尊重など職員としての基本姿勢が明示されている。これらの確認は各人に委ねられ、さらなる周知の工夫を課題としているが、非常勤職員向けに「共通に確認したいこと(基本的な心構え等)」として、子どもの人権・人格を尊重した接遇について「BBハンドブック」から抜粋し、配付している。また各会議で子ども一人ひとりやクラス内の状況が報告され、各職員が子どもや家庭の状況を踏まえ、最善の支援を行えるようにしている。</p> <p>虐待や家庭支援に関する情報共有や関係機関との連携に努めている</p> <p>要支援家庭への対応・支援に関して、区主催の研修に関する会議での報告やその資料の閲覧によって組織内の錦共有を図っている。また「BBハンドブック」中に家庭支援や虐待への早期対応に関する章を設けるほか、25年度に法人共通の対応マニュアルを作成しており、今後これらの読み合わせや勉強会など、職員の見識をさらに深める機会づくりにも努める意向である。日常の職員の視診や各家庭との交流の積み重ねなどから虐待の兆候・疑いの発見に努め、子ども家庭支援センターなど各関係機関との連携体制も整えられている。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	11/11
6 事業所業務の標準化			
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当	
<b>評価項目3</b> さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		<b>評点(〇〇〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当	
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当	
<b>サブカテゴリー6の講評</b>			
<p>「BBハンドブック」に当園の各職員に求める標準的な考え方や手順をまとめている</p> <p>「BBハンドブック」に日常の遊び・活動や保育の計画・記録、保護者との関わりや食事・食育、保健・安全など、当園の保育提供と運営を担う各職員に求める標準的な考え方や手順の全般をまとめ、常勤者全員に配付するほか、非常勤者にも抜粋の配布や入職時の閲覧等によって周知と活用が図られている。最終改訂後5年を経て、内容の精査と適宜の改訂が課題となっているが、今年度園独自に職位ごとの事務分担について一覧を作成するなどの取組を行っている。また嘔吐物等の処理をはじめ、衛生管理面の手順を必要箇所に掲示し、確実な実践につなげている。</p> <p>各種の会議や委員会を通じ、現場の発想や課題認識を活かした検討がなされている</p> <p>組織内の運営委員会やブロック会議で現場の気づきや提案が話し合われ、乳児が上がって行かないよう階段下に柵を設置するなど各所における随時の修繕をはじめ、各種改善に活かされている。また年間指導計画に基づく年2回の振り返りで日常の保育実践については反省を行うとともに、「プレイデー」など主要な行事では担当職員による委員会が設けられ、企画から実施・反省までを行う仕組みとし、各職員が自ら関わり、相互に検討や提案を行うなど、トップダウンのみによらず、職員の能動的な関与を促し、現場の発想や問題意識を活かしている。</p> <p>保育や安全面について、職員が見識を深める研鑽機会がさまざまに設けられている</p> <p>行政・各種団体による外部研修のほか、日常保育でのエピソードや子どもの姿をもとに、保育者のさまざまな視点を共有し合う「エピソード会議」が毎月行われ、法人5園合同の外部講師による研修では今年度「保育の中の『教育』って何？」をテーマに、新制度施行を前に、就学に向けて保育所が行える「教育」について改めて考え、学ぶ機会を設けている。さらに外部講師による乳児の夕方保育に関する内部研修、リスクマネジメントに関する外部専門家による講義と園内点検など、保育や安全面について職員が見識を深める研鑽機会を積極的に設けている。</p>			

## Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	37/37
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけができるよう、環境構成を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>一人ひとりの発達状況を把握し、職員間で共有をして子どもの全体像の把握に努めている</p> <p>日々のミーティングでは子どもの体調やアクシデントなどを共有しているほか、毎月のカリキュラム会議では子どもの姿と計画内容の振り返りを行っている。日誌や児童票(「あしあと」)等で個々の子どものエピソード記録を取り、内容に応じて会議で採り上げることで、さまざまな職員の視点が子どもに対する理解を深め、保育を豊かにする取組が行われ、子どもの全体像の把握につなげられている。また0～1歳児は緩やかな担当制とし、一人ひとりの発達状況や変化を把握し、きめの細やかな対応に努めている。</p> <p>環境設定の工夫や子どもの興味、自発性を引き出す関わりが行われている</p> <p>各保育室は年齢や興味に応じた玩具が選定され、手作りの玩具や布・毛糸等の素材を見立て遊びにつなげたり、積み木を継続して取り組める場所を確保して遊びの継続を保障するなど、子どもが主体的に意欲を持って環境に関われるような配慮を行っている。当番活動でも内容の役割決めは行わず、子どもの気づきから進んで行えるような促しを大切に、それぞれの自発性が自然に発揮されるようにしている。3歳以上児は異年齢編成での活動が行われるほか、夏季のプール時には年齢ごとの活動を行い、発達に即した活動内容が策定され、実践されている。</p> <p>それぞれの特性や習慣の違いを把握し、子ども同士の関わりや保護者に配慮をしている</p> <p>外国籍の子どもや保護者への配慮として、お便りにはふりがなを振り、アンケートは母国語で記載をするなど、可能な伝達方法でコミュニケーションを図っている。世界地図や図鑑などを活用して、子ども同士が異文化や風習の違いを知り、認め、お互いを尊重し合える関係性が図れるような配慮を行っている。幼児の子ども同士のトラブルについてはまずは解決ができるように見守り、仲立ちが必要な場合は双方の気持ちを受けとめたうえで、子どもの気持ちを代弁し、個々が受け入れるタイミングを考慮して納得をして気持ちが鎮まるような対応を行っている。</p>			

2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p><b>子どもの基本的な生活習慣の確立に向け、さまざまな取組を行っている</b></p> <p>基本的な生活習慣の確立に向け、子どもの発達に応じて段階的に見守りや声かけなどの関わりを行い、子どもが意欲的に取り組めるように促している。家庭との連携を図り、連絡帳や送迎時の会話で情報共有を行い、個々のペースで進めている。トイレトレーニングについては排尿間隔を把握して、子どもが便器に興味を示した頃にまずは座ることから始めている。着脱は脱ぎ履きしやすいように台を使用したり、1回分の着替えをまとめて置くことで、子どもが自分の持ち物として認識をし、意欲的に取り組めるような工夫がなされている。</p> <p><b>個々のペースや年齢発達に合わせた午睡時間の配慮を行っている</b></p> <p>休息の考え方として、家庭と園生活のつながりから生活リズムを整える時間としてとらえている。0～1歳児は畳の部屋が用意され、個々の眠りのペースに合わせて安心して眠れる場所が整えられている。0～1歳児は「生活チェック表」として15分おきに呼吸と状態を確認している。また午睡の環境として顔色がわかる程度に採光に配慮を行い、布団の配置はほぼ同じ場所にして安心して眠れるようにしている。5歳児は就学に向けて定期的に眠らない日を設け、徐々に身体を慣らし、生活を切り替えられるようにしている。</p> <p><b>子どもの様子は連絡帳や壁新聞などを活用して保護者に伝達している</b></p> <p>登園時は保育士が連絡帳や口頭で子どもの様子を把握するとともに、子どもが友達とふれ合い、遊ぶ様子から視診を行っている。保護者からの伝達事項は職員用の連絡ノートに記入するほか、必要な案件は口頭で直接伝え、職員間で情報共有を行っている。一日の子どもの活動内容は0～2歳児は食事・睡眠・排せつや個別の姿を連絡帳に記入し、3歳以上児は写真とコメントを加えて「壁新聞」として伝えている。また可能な限り口頭で詳しく説明をするよう心がけるとともに、電話や手紙で伝える工夫なども行われている。</p>		



3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている		○非該当	
●あり ○なし		2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当	
●あり ○なし		3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当	
●あり ○なし		4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当	
評価項目3の講評					
<p><b>子どもの姿の理解を深め、職員間での意識を高める取組が行われている</b></p> <p>「バオバブの保育が目指すもの」を基本理念とし、方針・目標を反映した保育内容を目指して計画策定を行い、保育を実践している。「B/Bハンドブック」には発達に即した子どもの姿や子どもに対する保育士の関わり、計画等の内容が示され、個々の子どもの取組や言葉で表現できない思いなどの理解を深める「エピソード記録」、子どもの姿を追いながら興味や関心を見通し、継続性や遊びの発展につなげてゆく姿を写真も交えて記録する掲示なども活用し、子どもの姿を定期的に職員同士で共有し合い、目指す保育への意識を高めている。</p> <p><b>子どもの興味や意欲を尊重して自主性・自発性を促している</b></p> <p>3歳以上児の朝の会では、一日の生活の見通しをつけ、子どもが主体的に活動を選択してゆけるような機会となり、散歩の行き先や室内での過ごし方など、子どもとの対話からヒントを拾い上げた保育展開がなされている。カレンダーには季節ごとの行事や誕生児の名前が書き込まれ、誕生日当日には仲間が歌を歌ったり、インタビューをして誕生児を祝う取組がなされている。0～1歳児は緩やかな担当制をとり、食事や午睡時間など登園時間に応じて生活リズムを整えるなど、個々の子どもの把握ときめの細やかな配慮につなげている。</p> <p><b>園外保育によるさまざまな体験を通して子ども自らが成長できる機会を設けている</b></p> <p>天気の良い日は園庭や公園・河原に出かけ、斜面の上り下りや探索遊び、花や草摘みなど季節の事象を感じながら意欲的に遊べるようにしている。虫や草花などを見つけ、仲間とともに図鑑で調べたり、採取した自然物を持ち帰り制作に展開させるなど、活動の連続性を豊かな発想につなげ、仲間と協力し合っ一つのことに取り組むことで、仲間意識も高まるようにしている。活動に応じて異年齢集団や年齢別集団として柔軟に対応し、ルールのある遊びに興じたり、道のりを楽しみながら遠距離に挑むなど、年齢やクラスの枠を超えた活動の充実が図られている。</p>					

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目4の講評		
<p><b>日々の活動の延長として、子どもの自主性や終了後の充実感を意識した行事を行っている</b></p> <p>日々の生活や日常の遊びを通しての育ちを大切にするという考えが行事のあり方にも貫かれ、行事のために保育があるのではなく、行事を毎日の生活に彩りを添えるものにとらえ、子どもの主体性を大切にしている。「プレイデー(運動会)」では5歳児が自ら遊びを作ることにつながるよう職員が競技を提案し、子どもたちがルールを話し合っで決める形としたり、「お泊り会」でもどんな会にするか話し合っで決めたり、保育で制作した草木染めを首に巻いて園外保育に行くなど、子どもが主体となって協力し、満足感が得られるような内容で実施されている。</p> <p><b>行事の前後にさまざまな媒体で保護者に働きかけ、理解を得られるよう努めている</b></p> <p>プレイデーや今年度新設した保護者参加型の作品展「アートフェスタ」では主旨を掲載したお便りを数回配付し、事前に保護者の理解が深まるようにしたり、アンケートの結果をもとにプログラムや環境の再考などを行っている。またお泊り会終了時にはスライドショーの実施や「お泊り保育報告集」の配付など、内容を丁寧に伝える取組を行っている。園便りにもお泊り会当日までの子どもたちの話し合いや使用した草木染めの制作時の様子、当日の様態などを写真入りで掲載し、他クラスの保護者も内容を知り、わが子の経験にも見通しが持てるよう配慮している。</p> <p><b>子どもが年齢を超えて交流を深めたり、さまざまな人たちとふれ合える行事を設けている</b></p> <p>「入園を祝う会」で5歳児が作ったメダルを新入園児にプレゼントし、幼児クラスと一緒に歌を歌ってお祝いしたり、「卒園を祝う会」でも3歳児が制作した折り染めの台紙に4歳児が描いた似顔絵を貼った卒園証書を作る等、日々の異年齢保育の特色を活かし、子どもたちが協力して仲間を祝う機会を設けるなど、子どもの意欲を活かしながら成長の自覚につなげている。また提携農家との「新米の会」などで日常生活の中で大切な関わりのある人々と実際に交流する等、さまざまな人とのふれ合いも経験しながら、社会や自然への興味も深められている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>家庭的な雰囲気づくりに配慮を行い、子どもがゆったりと過ごせる環境を整えている</b>  各保育室を含む園内の環境には木の温もりを活かし、子どもがゆったりと過ごせるような環境設定に取り組んでいる。0・1歳児室には畳が敷かれ、身体を横たえて遊んだり、眠くなった時に安心して眠れるような場所が確保されている。手作り玩具やぬいぐるみのほか、自然の素材や風合いを活かした掲示物や装飾も随所に置かれ、家庭的な雰囲気を伝えている。幼児の部屋はホールに玩具が置かれ、好きな場所で遊べるような配慮がなされているほか、絵本コーナー「ひだまり」では絵本を自由に手に取り、くつろいで読めるような空間が整備されている。</p> <p><b>異年齢や個々の配慮を行い、安定した気持ちでお迎えを待てる工夫がなされている</b>  夕方の延長保育時間「えくぼ」では制作やパズル、ゲームなど落ち着いて遊べる専用玩具を用意し、補食を終えた子が穏やかにお迎えを待てるような配慮を行っている。異年齢の子ども同士が遊びのお手伝いをしたり、補食提供時に年下の子のお世話をする姿が見られている。長時間を過ごす中で不安定になってしまった子には、部屋から出て園内を散歩したり、保育者のお手伝いをして時間を過ごし、安定した気持ちで待てるような関わりを行っている。延長保育は1歳からの事前登録になっているが、急な残業等の延長希望も受け入れる体制を整えている。</p> <p><b>子どもの姿や園でのさまざまな取組を伝え、保護者との共有を図っている</b>  日々のミーティングではクラスの様子や個々の子どもの変化、保護者からの伝達事項などを共有している。延長保育担当者が各クラスを回って伝達事項を把握するとともに、それらに伴う子どもの様子を確認している。0～2歳児では「子育てノート(連絡帳)」に日々の活動内容や食事・睡眠・排せつなどの様子を記入するほか、口頭でも詳しく伝えている。幼児は「壁新聞」として写真やコメントを織り交ぜ、掲示している。制作や子どもの遊びなど連続した活動や調理室(「だいどころ」)からの発信も掲示し、園でのさまざまな取組を保護者に伝えている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○非該当
評価項目6の講評		
<p><b>安全で健康に配慮した食事作りを心がけ、食に関する取組を積極的に発信している</b>          有機農法をしている農家と提携し、無農薬のお米を購入、園で七分づきや白米に精米しているほか、農薬や添加物をできるだけ避け、安全と健康を考えた食事を提供している。提携農家とは「新米の会」などさまざまな交流機会を設定し、食事への関心につなげており、子どもたちが食材が手をかけられて作られたものであると感じ、保護者にも生産者と直接会い試食できる場を設ける事で安心感が得られるような活動となっている。これらの取組は写真を交えて詳細伝えられ、食の大切さの理解や「おいしい・楽しい」気持ちにつながるよう工夫されている。</p> <p><b>日々の保育で子どもが食に関わる機会を積極的に設け、楽しみや関心につなげている</b>          散歩中に子どもたちがカラスノエンドウを見つけて持ち帰ったことをきっかけとした大豆栽培、キュウリやミニトマト等の野菜栽培を通じ、子どもの興味や関心を食への関心につなげている。また日常的に野菜洗いや皮むきなどで食材に触れる機会が用意され、餅つきの前には米とぎをして準備に参加するなど、子どもが食事への期待や楽しみを持てる保育を行っている。「お楽しみ会」ではクリスマスにちなんだ盛り付けや折り紙で食具を飾り、幼児クラスで会食をしたり、持参した空の弁当箱に食事を詰めて提供する等、楽しく食事を摂れる工夫がなされている。</p> <p><b>食事は一人ひとりの体調・リズムや特性に配慮し、落ち着いた環境の中で進めている</b>          乳児のクラスでは子どもの様子に合わせて時間差をつけたグループで食事をしたり、テーブルについた職員はなるべく動くことのないよう体制が考えられ、落ち着いた環境の中食事できるよう配慮している。調理室が常に見えるような室内の造りや、配膳を子どもたちの目の前で行ったり子どもたちが自ら行うことで、自然と食事に積極的に向かえる環境となっている。子どもの体調に合わせて「配慮食カード」を使い、無理のない食事の提供をしたり、アレルギー除去食対応の子どもが安全に食事できるようテーブルを分ける等の配慮もなされている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが生活の中で自ら健康維持やケガの予防を意識できるようにしている</p> <p>発達に応じて手洗いうがいを励行するほか、看護師が主に2歳以上児を中心にペープサート(紙人形劇)など保育の工夫も用いた各種の保健指導を行っており、単一のテーマにとどまらず、生活習慣全般や規則正しいリズムづくりにもつながる内容としている。また3歳以上児には歯磨き指導がある。園外活動では公園で危険な場所を伝え、園外に出ないように注意したり、遊具の遊び方や不安定な設備に乗らないことを伝えたりするほか、移動中の安全配慮や交通マナーは散歩のつど注意を促している。</p> <p>看護師が中心となり、子どもの健康管理や積極的な職員への指導を行っている</p> <p>毎日の子どもの健康管理は看護師が各担任や園医と連携して行っており、体調のすぐれない子どもは1階事務室内の相談室で静養することもできるようになっている。また看護師はアレルギー・熱性けいれん・喘息などの持病、通院中含むその他の健康面の配慮を取りまとめ、年度当初の全体会議で職員に配付するほか、「月間サマリー」として毎月の各疾患集計や特記事項のある子どもの情報を書面にまとめるなど、積極的な取組を行っている。「元気に遊べて、ご飯が食べられる」ことを大切に、子どもの状況や特性にも鑑みた個別の柔軟な対応を心がけている。</p> <p>毎月の保健便りや園内各所での掲示等によって、保護者に保健の情報を提供している</p> <p>看護師が毎月の保健便りを通じて生活リズムや目・歯、時季ごとの感染症など、保健や家庭での健康維持に関する各種の情報を保護者に伝えており、プール遊びや熱中症・虫除けなど、季節やその月の保育活動も踏まえた話題を提供している。また「入園のしおり」に保健に関するページが設けられるほか、地域の病児・病後児保育の案内も入園時に配付している。園内での感染症の発生状況や行政・各機関からの随時の発信などは1・2階の掲示スペースや各室で随時掲示し、保護者への注意喚起や啓発につなげている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p><b>各家庭との連携に努め、子どもの育ちの共有や就労等への配慮に取り組んでいる</b></p> <p>保護者の個別事情を入園時の任意のアンケートやその後の毎日の交流、面談などから把握し、急な残業等による利用時間の変更をはじめ、働く保護者や各家庭の価値観等に配慮した柔軟な支援に努めている。懇談会や親子観劇・試食会・「プレイデー(運動会)」等の各行事など、さまざまな交流機会を設けるとともに、日程は土曜を中心に、面談も希望に応じ日時を設定するなど、保護者の就労等にも配慮している。今年度からは発達記録「あしあと～育ちの記録」の共有によって各家庭との連携をさらに深める取組にも着手している。</p> <p><b>懇談会や保育参加を通じて保護者との共通理解を深め、意向の把握にも努めている</b></p> <p>各クラス年2回の懇談会では、資料を配付して保育のねらい・クラスの状況や年齢ごとの発達傾向を伝えるとともに、テーマを設けた話し合いの時間も設け、保護者が園の保育への理解を深めたり、子育ての見通しを持てるようにしており、日頃の保育や子どもたちの様子を画像で伝えるスライドショーも活用している。また希望制の保育参加で活動や食事を子どもと一緒に楽しむこともできるようにしている。これらを含む保護者参加行事後の各アンケート、玄関の「何でも御意見箱」などを通じた意向把握も積極的に行い、寄せられた声は園便りで紹介している。</p> <p><b>保護者との交流、保育や子どもの生活を伝える情報発信にさまざまな工夫をしている</b></p> <p>子どもも参加して園の家具や庭の整備、軽食と懇談などを行う例年恒例の「ワークショップ」では、今年度は手作り玩具制作も行った。また今年度初の試みとして「アートフェスタ」を開催、子どもの作品に加え、保護者も各クラスで活動の一端に触れつつ制作を楽しむ機会を設け、ともに展示している。新たに始めた保護者限定のブログ、幼児クラスの「壁新聞」やその他各クラスでの写真を活用した随時の掲示など、子どもの日々の暮らしを積極的に保護者に伝え、園便り「木もれび」にも園の各活動や状況を伝える工夫がさまざまに凝らされている。</p>		

9 評価項目9 地域のニーズに即した子育て支援を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○非該当
評価項目9の講評		
<p>内外の環境も活用し、地域の子どもや保護者のためのさまざまな活動を行っている</p> <p>地域子育て支援として子育てひろば事業を行い、家庭で子育てをする周辺の保護者のくつろぎや相談の場を設けている。原則として毎月第1木曜に隣接の公園で行う「出前ひろば」では、小山に登って滑ったり、ボール遊びやかけっこを楽しむなど親子で存分に身体を動かした後、喫茶とわらべ歌でゆったりと過ごしている。また「あかちゃんの会」では毎月第2・4木曜に園のホールで乳児の保護者の交流の場を設け、園の栄養士・看護師も協力し、離乳食や赤ちゃんのスキンケアなどのテーマで話し合い、育児に役立ててもらっている。</p> <p>保育所体験や保護者同士の交流、情報紙を通じた地域の子育て支援に取り組んでいる</p> <p>概ね1歳半以上の子どもと保護者を対象にした「とことこクラブ」では、子どもは在園児と一緒に水遊びや制作・絵本など園の保育を体験し、その間保護者同士で交流したり、担当の保健師・栄養士への育児相談などを行うことができ、有償で提供する給食では食物アレルギーにも対応可能としている。また各所での配布や来園者への提供を行う子育てひろば通信「やま公園だより」には、これら各種子育て支援イベントの毎月の案内のほか、園の人気レシピや子どもの発達、保健や生活習慣など、育児の参考となる話題を掲載している。</p> <p>子育てひろばの各取組を計画と振り返りのもとで行い、継続的な充実を目指している</p> <p>子育てひろばの各イベントでは、実施のつど担当者による計画立案と振り返りを行うほか、毎回の参加者にアンケートを行い、感想や今後行ってほしい企画などを募っている。参加者の声から離乳食に関するニーズを把握し、検討の参考とするほか、年度の後半からは年度末までの毎月の計画を定めることで、より見通しを持って事業を行えるようにしている。半期、年度末などの定期的な総括についても今後実施し、さらに実行と効果測定・振り返りの循環を機能させて、継続的な充実につなげたいと考えている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	生産の現場とも連携し、子どもの食への興味と多彩な体験を培う食育活動を展開している	
内容①	日常的に下準備などで食材に触れる機会が設けられているほか、園内にある掲示板や調理室が発行するお便りで、提携農家の田植えなどの日々の栽培の様子を写真等でこまめに紹介したり、たびたび生産者も参加して子どもたちや保護者との交流の機会を持つなど、食を身近に感じられる取組を積極的に行っている。「新米の会」では生産者が写真等を用いながら米作りの話をし、子どもたちは好きな具材を選んでおにぎりを作り食する体験を通して、また保護者は生産者との交流を通して、食への興味・関心が深まるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている
タイトル②	一人ひとりの発達の推移を保護者より深く共有し、ともに見守る配慮に取り組んでいる	
内容②	今年度から子ども一人ひとりの発達記録「あしあと～育ちの記録」を保護者に提示し、保護者からは感想や家庭での姿、子どもへの願いなどを記入してもらい、相互のやり取りの中で子どもの育ちのプロセスを共有する取組を行っている。「あしあと」には年齢ごとに設けた節目でそれぞれの子どものに定めたねらい・配慮とともに、その時点での子どもの興味・関心や日頃の生活の中でのエピソードも記され、「一人ひとりの子どもが紡いでゆく物語」を一緒に見守り、大切な幼少期に積み重ねられる成長をともに確かめ喜び合う資料として活かされている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	園の思いや保育のありようを具体的・視覚的に伝え、保護者との相互理解を深めている	
内容③	毎月の園便り「木もれび」は園長の折々の所感のほか、食事・食育や子どもの活動・行事の紹介、お勤めの絵本をはじめとする各家庭から募ったさまざまな声など多彩な内容で構成され、保護者の参画も促しながら、園の活動の全体像を詳しくかつ親しみやすく伝えている。また幼児クラスの毎日の「壁新聞」をはじめ、各クラスで随時写真に保育者が説明やコメントを添えて掲示し、子どもたちの成長が織りなす園の毎日をいきいきと伝えるほか、懇談会でもスライドショー上映を行うなど、園の思いや保育のありようを具体的・視覚的に伝える工夫に努めている。	



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	一人ひとりの成長発達を多面的な視点でとらえ、理解を深めて子ども・保護者の支援に努めている
	内容	子ども一人ひとりの発達や成長をさまざまな方法で把握し、全体的な姿をとらえて保育実践に活かしている。乳児は緩やかな担当制、幼児は異年齢活動を行うなど、小集団形成をして一人ひとりの関わりを大切に保育展開がなされているほか、個々の興味関心、仲間や大人との関わりなどのエピソードを記録し、定期的に会議で情報共有を行って子どもの思いを多面的な視点でとらえている。また個別の発達記録「あしあと～成長の記録」を保護者に開示し、子どもの発達の推移や今興味を持っていることなどを共有し、ともに成長を喜び合えるようにしている。
2	タイトル	年齢発達に応じた日々の保育活動と、その延長線上に連なる節目としての行事の取組が、子どもの豊かな育ちを紡いでいる
	内容	日々の保育では子どもの成長発達を丁寧にとらえ、関わりを持つよう配慮し、子どもたちの興味から拾い上げた題材をもとに展開する、子どもの主体性や意欲を大切にした支援が行われている。行事もその延長と位置づけ、子どもの興味や保育との連続性を活かした内容や構成を考案して取り組んでいる。異年齢保育を行う中で「卒園を祝う会」で年上児を祝う気持ちや憧れる気持ちを経験したり、「お泊り会」で友達と一緒に不安を乗り越える経験をし、自信につなげてゆく機会などが設けられ、子どもの育ちが豊かになるような配慮、工夫がなされている。
3	タイトル	自然物をさまざまに活かした環境の工夫や発達に応じた関わりを通して、子どもの主体的な活動を促している
	内容	木の温もりを活かした園内には自然素材の掲示物や布の天蓋、四季に応じた子どもの制作物が並べられ、子どもが安定した気持ちで過ごせるよう環境が設定されている。指先遊びを意識したものや個々の子どもの好みに応じたぬいぐるみなど、職員手作りの玩具のほか、年齢に応じた動的な動きを見通した玩具を並べるなど、子どもが意欲的に活動を行えるような工夫がある。また園庭に植えられた各種の草木の花や実を通して季節の移ろいを感じ、園舎隣の起伏のある広場ではルールのある遊びや、ダイナミックに身体を動かすなど、能動的な活動が行われている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	重点課題の解決に向けた年度計画の精度向上や、事業環境を踏まえた園としての近未来像や中・長期的な計画の策定が期待される
	内容	法人の長期計画も踏まえ、園としての年度の事業計画を策定している。今年度は児童票の書式の改訂や異年齢保育などに重点を置き取り組んでおり、運営委員会で課題の検討を図りながら成果にも結びつけている。今後は法人の計画とのつながりを深め、法人の方向性をより踏まえた計画としたり、取組や成果の質を高める観点で、目標や進捗の指標を具体的に定めることなどが課題と考えられる。また地域性や保育制度全体の動向・展望などの事業環境も視野に入れ、園としての中・長期的な目標・課題やそのための計画の策定も、検討の余地はあるものと思われる。
2	タイトル	情報管理やプライバシー保護において、職員が守るべき具体的な取り扱いや心構えの明示と周知徹底を期待したい
	内容	社会情勢の変化や価値観の多様化から、情報管理やプライバシー保護は保育所にとっても重要なリスクマネジメントとなっており、その点で、現場における一部帳票の取り扱いや事務室内の書類の管理状況、ソーシャルメディアへの関わりを含む職員への啓発などの面で、さらなる配慮の余地も見られる。書類・データの取り扱いやSNS等における配慮などについて、遵守すべき心得を具体的に示したマニュアル等の作成・周知や、退職後を含めた守秘義務徹底の誓約を確認する仕組みなど、検討を期待したい。
3	タイトル	定着しつつある地域への子育て支援をさらに充実したものとするために、定期的な振り返りと改善の仕組みの確立を期待したい
	内容	開園3年目を迎え、ニーズの高まりも踏まえて昨年度から各種の地域子育て支援を定例化し、年間の計画的な取組として行っている。隣接する公園で行う「出前ひろば」、乳児の親子向けの「あかちゃんの会」と概ね1歳以上児の親子が集う「とことクラブ」をそれぞれ毎月行い、保育所としての専門性を活用して地域の子育てを支援しているが、半期・年度末などの定期的な総括を行って次期の取組に活かす仕組みについては、今後の課題となっている。計画・実行・反省の循環をさらに機能させて、事業の継続的な充実につなげることを期待したい。